令和５年度　生活科実践・研究計画

部　員	○渡部　和朝、保坂　智子、丹　理人

研究テーマ
思いや願いをもって対象への働きかけをよりよくしながら、気付きの質を高めていく子どもを育む学び

1　研究テーマについて

昨年度までの実践では、子どもたちは思いや願いはもっているものの、働きかけと結果との関係を十分に理解できず、思いや願いの実現に向けて働きかけをよりよいものへと更新していくという点について課題が残った。そのため、よりよい働きかけをしたという手応えや自分自身の成長の実感が生まれていないというのが現状である。

こうした現状を踏まえ、今年度は、気付きの質が高まるように「無自覚なものから自覚された気付き」「一つ一つの気付きから関連付けられた気付き」「対象への気付きから自分自身への気付き」へと気付きの対象を変化させ、働きかけをよりよいものへと更新できるように学習を進めていく。

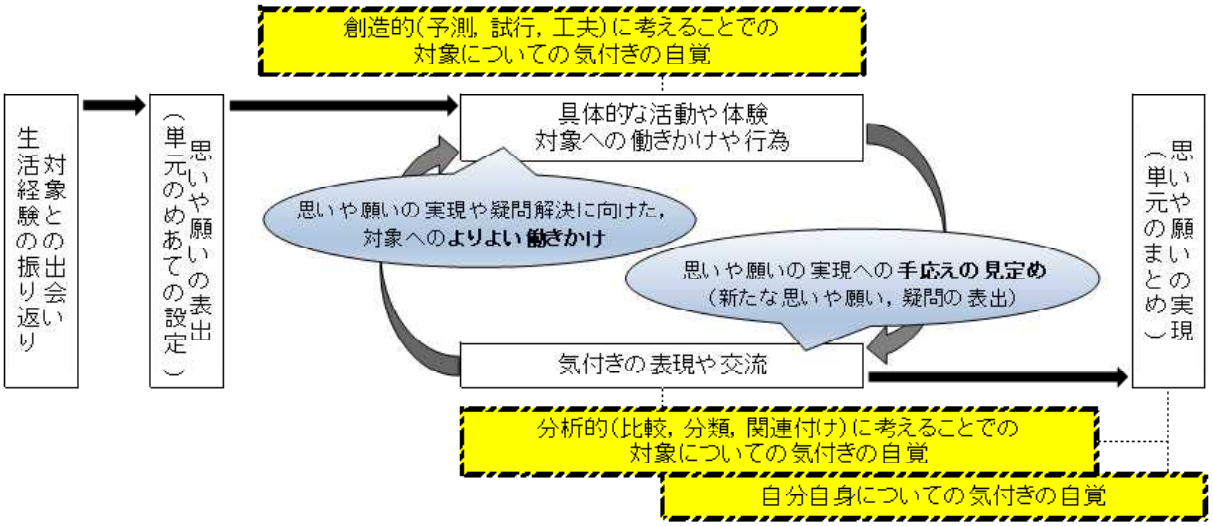
そのためにはまず、教師が子どもに尋ねたり活動の振り返りを促したりしながら、気付きの自覚化を図るようにする。また、子ども同士で学び合う場面を設定し、互いの気付きを比べながら、相違や新たなことに気付くことができるようにする。さらに、他者からの価値付けにより、自分の成長や可能性などの気付きを得られるようにしていく。

本校生活科で育みたい力は、対象へ働きかけて得た気付きの質を高め、思いや願いの実現への手応えを見定める力であり、働きかけと得られた対象の反応や結果の関係を自覚し、対象への働きかけをよりよいものへと更新していく力である。

そこで、働きかけの方向性を見通し、働きかけをよりよくしながら思いや願いの実現を目指す姿を期待し、「思いや願いをもって対象への働きかけをよりよくしながら、気付きの質を高めていく子どもを育む学び」の研究テーマで実践を積み重ねていく。

生活科で目指す自律した子どもの姿
- 分析的（比較、分類、関連付け）に考えることで、働きかけて得た手応えや抱いた思いや願いを自覚し、実現への手応えを見定める姿
- 手応えを基に、創造的（予測、試行、工夫）に考えることで、働きかけと対象の反応や結果との関係を自覚し、対象への働きかけをよりよいものへと更新していく姿

図：生活科　自律した学習者を育てる学習のプロセス



2　研究の重点＜○は具体的な取組の例＞

対象への働きかけをよりよいものへと更新し、気付きの質を高めるための手立て
- ○思いや願いの実現に近づくために、働きかけをよりよいものへと更新しながら気付きの質を高めることにつなげる、教師の働きかけや学び合いの支援について工夫する。
- ○試行錯誤して得られた対象の反応や結果と働きかけについての気付きを関連付けられるように、思考ツールやＩＣＴ機器を活用する。